

---

# 映画恨

たかぴょん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

映画恨

### 【Nコード】

N3468D

### 【作者名】

たかぴょん

### 【あらすじ】

台風やむかしの田舎の風景。大きな白いテロップ白線のような。効果音は別撮りで苦々しい胡麻すりのノウバの姿。東北の冬は寒い……でも映画

おしること映画はどっこい、どっこいだとわが憧れの太宰治さんはある記事に書いていた。たしかにどちらもおいしい。

職場のわたしは真面目人間で通っており、仕事はあまり出来ないが誠実である。そんな水風呂と白濁温泉を、またぎ浸かっているような童貞男の人物評価。くわばら。生活の柱から冷たくされるより嫌悪なことはない。渋谷東急シネマ会館の前を通るときも、映画が放つ？シトラスブルー？のような香りに鼻を引っ張られる。が、目線は反対車線一杯百八十円の喫茶店へ食い込まれている。左右正反対。どちらにしようか。もちろんわたしの血液型はABである。

映画からは足を洗った。わたしは銀幕のヒーローを窓越しに見るのではなく、そいつを鏡に化学変化させてやろうと誓った。幼児期から深夜テレビで『青春とは何だ』の再放送に夢中であつたし、あらゆるサスペンス劇場、洋楽・邦楽、もちろん激しいベット・シーンまで釘入るようになっていた。だが教科書曰く 骨盤付近に毛が生えるようになってから 八面鏡が欲しくなった。つまりわたし自身が現実の社会で、わたし自身の人生を銀幕ヒーローのように生きなくなる。夢を追い、恋をし、人を愛そう。果ては地面に膝を付いて泣こう。わたしは中村雅俊だ。今晚寝る前に眉毛を抜いて整えよう。

化学用語で『慣性』というのがある。人間はある程度の欲求を満喫したあとは、それ以上の刺激を受けなければ満足しなくなる。

わたしは小さいころ、テレビCMに流れる映画広告が悪魔だと信じていた。次回の放映予定後、淀川さんが「新作を映画館でみましようね。ではさよなら、さよなら」などと葉っぱをかけられることを立腹した。わたしの家には映画へ連れて行ってくれる人もいないし、またそんな金もない。あまりにも惨めで家族の居ない間にこっそりと泣いたこともある。子どもの癖に学校そっちのけで金のかからない映画が好きだった。鑑賞後の充実感が好きだった。有料チャンネルなど論外であった。

映画館は五回しか行ったことがない。一人で行ってもつまらない。暗闇の中でこっそり、隣に座った愛する人の心の行方を探りながら、明るい前方を見つめるのが優越だ。電車では優先席というものがあるが、こちらは人生の優越席といったところ。映画は一人一人の心と、現実との狭間にフェンスを敷いている。飛び越えるのも、破るのも、潜るのもあなた自身にかかっている。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3468d/>

---

映画恨

2010年10月11日01時17分発行